

分野： I 小児・成人ぜん息に関する調査研究
② 重症ぜん息患者の増悪予防策

I-②

委託業務名：成人重症ぜん息における生物学的製剤の治療実態と効果予測因子に関する長期的検討

調査研究代表者氏名：長瀬 洋之

1 評価項目						
5点:大変優れている(A判定) 4点:優れている(B判定) 3点:普通(C判定) 2点:やや劣っている(D判定) 1点:劣っている(E判定)						
	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
(2) 研究成果目標の達成度	4人	2人	0人	0人	0人	4.67
(3) 研究計画の妥当性	5人	1人	0人	0人	0人	4.83
個別評価(第3評価):(2)(3)の平均						4.75
(6) 総合評価(第2評価)	6人	0人	0人	0人	0人	5.00
全体評価(第1評価):(2)(3)(6)の平均						4.83

2 記述評価
・全体として申し分ない進捗状況であり、喘息治療管理ガイドライン改訂資料の有力なものとなりうる研究である。 ・一つだけ細かい点ですが、Ig E値の統計処理はgeometric 変換が必要です。結果に大きな影響はないかもしれませんが。 ・大変に優れた研究計画に沿って実行されている研究でありさらに検討が発展的に進むことが期待出来ると思います。疑問点はCR (clinical remission)を目指す上で最後まで残る治療はバイオと想定しているのか、あるいはOCSが不要の状態がバイオすら不要でむしろJGLの治療ステップ4以下で維持できるのが究極なのか、あるいはバイオ単独での治療を想定しているのか伺いたいところです。そしてunmet needsとして今後どのようなアプローチで開発できる可能性があるかも想定内に含めて研究を進めていただきたい。その意味では、本プロジェクトにおいて、遺伝子レベルの検討に突き進んで遺伝子を突き止めることの意義づけに疑問を感じています。 ・調査研究は順調に推移していると考えられる。今後の進展を期待する。 ・本事業と社会に十分に貢献できる調査研究と考えます。 ・種々の生物学的製剤の使用法や効果についての解明に向けての第一歩になりうると思います。フローや治療チャート作成に期待したい。 ・成人重症ぜん息に対する生物学的製剤の使用実態に関する貴重なデータが提示されている。医療資源の有効活用にも資する研究である。 ・重要な成果が得られつつある。治療ガイドラインに反映されうるエビデンスとなることを期待する。